

上 田 勉

◇四月は別れと出会いの季節

四月は別れと出会いの季節です。皆さんは、どんな別れと出会いがありますか？

私は、福島県楡葉町へ来て、早や6年が経ちました。勤務先も、楡葉町役場が4年、大熊町役場が1年、双葉町コミュニティセンターが11カ月（継続中）・福島県東日本大震災・原子力災害伝承館が5カ月（継続中）になります。私は現在73歳です。同年輩の多くの人達がリタイアして自分の時間を自由に使っているのに、この年になっても働けるのは恵まれているのかもしれませんが。ちなみに、福島県の被災地は恒常的に人手不足です。

浜通りにいると、何人かの人達が、「あっ上田さんだ」と向こうの方から私に声をかけてくれます。マスクをしているのに、なぜか私だとわかるのか不思議です。東京の葛飾区の都会にいますと、このような機会はほとんどありません。単身赴任で一人で生活していると、何よりも健康が第一です。周りの人達がいつも私を見守ってくれていることは、本当にありがたいです。

この歳になってくると、亡くなる友人も何人かいて、別れる人は多くなりますが、出会う人はどんどん少なくなります。私は、どちらかと言うと群れないで孤独を好む方です。今まで何十回となく、東南アジアや中国・インド等へ旅行しましたが、ほとんどがツアー旅行ではなく、個人旅行です。個人旅行では、多くの出会い（遭遇）や別れがありました。こわい経験では、お金を取られたり（ウクライナ）、タクシーで別のホテルに連れていかれてホテル代をぼられたりしました（インド）。反対に助かったことでは、家に招いてくれたり（インド）、高速バスで知り合った夫人が旦那さんの車でホテルへ乗せて行ってくれたり（安ホテルなので、場所がよくわからなかった）（インド）、国境でバスが行ってしまって街の中心まで車で送ってくれたり（中国）しました。個人旅行はツアーのように観光地を巡ることはできませんが、ゆっくりと流れる時間の中で、路線バスに乗って街を見たり、市場で土産物を買ったり、屋台で食事をしたり、という庶民の生活を実感することができるのが、私にとっては何よりの宝物です。

個人旅行はまた、地球上にそして歴史の中に自分が存在していることを実感させます。トルコのイスタンブールでは、今は使われていないと思われる、オリエント急行の発着駅に行きました。旅客の休憩室では、アガサ・クリスティーや探偵ポアロがここでお茶を飲んだのか、と思いを寄せました。ウクライナのキエフとリビウでは、チェルノブイリ原発を案内してくれたガイドさんや、ホテルの従業員や店の店員さんたちが、今も安全でいてくれるのかどうか、ただただ祈るばかりです。

私は、陸路で国境を越えるのが好きです。中国からはカザフスタン・ラオス・ベトナムへ国境を越えました。現地に住む人達にとっては、昔から国境はありません。今でも国境の両岸の人達は、パスポート無しで、橋や川を行き来しています。「国境」は人が作ったものです。出会いと別れの話しから、とりとめもない個人旅行の話しになってしまいました。



【三春の滝桜と並ぶ福島県の銘木—高田桜（石川町）】



【福島県一の桜並木—夜ノ森（富岡町）】